

上ノ国の文化を後世に繋いでいくために

3月17日、上ノ国町の歴史文化を後世に継承していくためのマスタープラン『上ノ国町歴史文化基本構想』が策定委員会（田才雅彦会長）により策定され、その内容を広く周知するためのフォーラムがジョイじよぐらにて開催、約100名が参加しました。

会場では、約五百年前の中世期に生まれたとされ、町内の一部で受け継がれていた『昔踊り』が披露されたほか、その後、策定委員会から、基本構想が町長へと伝達されてフォーラムが開会となりました。

この日は、10年以上前から本町の地質等を研究され、策定委員会委員でもある弘前大学の小岩教授と学生等が研究成果の発表を行い、ふるさとの地質と気候が紐解かれていました。

またその後、歴史文化基本構想調査部の部長を務めた岩田靖さんによる講演も行われ、調査活動をと



おして掘り起こされた地域の伝統や言い伝えを後世に伝えるため、伝承する後継者を育成することが不可欠であると訴えられました。

そして、フォーラムが終わりに近づくと、もんじゅ海岸付近の地質的特徴の一つでもある『枕状溶岩』にちなんだオリジナルの和菓子『枕状ようかん』や、ゴジラエビ（ガサエビ）の出汁が利いた『カミゴン汁』など、上ノ国の特徴を表現した料理も振る舞われ、今日のフォーラムを振り返る演出に、参加者は強く印象に残ったとのことでした。

最後には、出席者による意見交換会が行われ、このフォーラムに出席した方々からは、『知らないうちに失われていった文化があることが悲しい』『後世に残すためには失われたいよう常に伝え続けなければならぬ』と強く思った、といった言葉も聞かれました。

構想の詳しい概要については、6から7ページの教育委員会だよりに掲載されておりしますので、ご一読ください。

始まるサヤエンドウシーズン 冬季営農講座が開催

3月13日、主力作物であるサヤエンドウ等の生産性向上を目的とした冬期営農講座（農林課主催）が、種苗メーカーと青果市場の担当者を引き、役場研修室で開催され、農業者等約40名が参加しました。

講座では、種苗メーカーの担当者からサヤエンドウとサヤインゲンの栽培技術に関する説明が行われたほか、青果市場の担当者からは、町内産サヤエンドウは色目も濃く、揃いも良いと高評価を得ていることが伝えられ、また、スパーなどでの売り場の確保を図るためにも、シーズンを通して安定した出荷量をお願いしたいなど要望も上がっていました。



南部檜山美声会チャリティーショー

3月18日、南部檜山美声会（布施美治会長）主催による『第19回歌謡・民謡・舞踊チャリティーショー』がジョイじよぐらにて開催され、多くの来場者で賑わいました。

地域への貢献活動として行われているこのチャリティーショーですが、町内外から集まった出演者の方々が50を超える演目を披露、観客からは大きな拍手や歓声が贈られるなど、チャリティーショーの会場は温かな一体感で包まれました。

来年は第20回と節目の年となることから、布施会長は『チャリティーで集められた寄附は、地域に役立ててもらおうことを目的に社会福祉協議会に寄付しています。私達も楽しみながらやっていますので、これからも仲間とともに継続していけたらいいと思います』とのことで、長く続く活動の秘訣と、地域への思いを話されていました。

